

議事録

【会議の名称】

宝塚市パークマネジメント計画等審議会

【会議の開催状況】

日時：令和7年10月21日（火）10時00分～11時30分

場所：市役所会議室

【出席者】

（委員）

赤澤宏樹：兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 環境計画部門 教授

竹田和真：大阪産業大学デザイン工学部 建築・環境デザイン学科 准教授（オンライン参加）

阪上和彦：宝塚市花き園芸協会 会長

清水厚真：櫻守の会 代表

松田洋三郎：公募による市民

安東明美：兵庫県阪神北県民局県民躍動室 室長

（事務局）

中村次長、雑賀課長、田中係長、児玉係長、阪上、藪内

【欠席者（委員）】

梶木典子：神戸女子大学 家政学部 家政学科 教授

上町あずさ：武庫川女子大学 建築学部 景観建築学科 教授

【次第】

1 開会

2 議題

（1）第7回審議会における到達目標 資料1、2

（2）報告事項について

・公園区計画の作成の流れ・調整状況 資料1

（3）主な審議事項について

・街路樹管理計画の案及び修正内容等 資料1、3-1、3-2

（4）関連事項について

・都市計画公園見直しガイドライン（案）の修正

・開発協力金制度の検討状況 資料1

・シビックゾーン魅力向上に向けたサウンディング実施 資料1

3 閉会

【配布資料】

資料1 概要資料（※全体概要）

資料2 今後の審議会・作業部会における審議・検討の流れ（案）

資料3-1 宝塚市街路樹管理計画（案）

資料3-2 宝塚市街路樹管理計画（案）概要版

スライド_資料説明

【議事録】

1 開会

○資料の確認

2 議事内容

【議題1. 第7回審議会における到達目標】

全委員：（異議なし）

【議題2. 報告事項について】

①公園区計画の作成の流れ・調整状況

委員：アンケートの内容はどのようなものであるか、概要の報告だけではわからない。

事務局：第2回の準備会で中山台、長尾ではアンケートを実施することが決まった段階で、現時点ではお示しできる内容にまで至っていない。

会長：先行地区は今後のモデルになりうるため、アンケートで何を聞くのかは重要である。

また、アンケートは市主導で作成するのが望ましいのか、地域と協議し内容を定めるのが良いのか、検討してもらいたい。作成した内容について審議会にも共有してほしいが、アンケートの検討も突き詰めると際限がなくなる。限られた時間の中で極力丁寧に準備を進めてほしい。また、他の地区の進捗状況も共有して進めるといいのではないか。

委員：スライドP11の各公園区における公園区計画作成の進め方の表の具体的な進め方には、中山台は子ども、子育て層の意見を収集となっているが、長尾、宝塚はそうではないのか。

事務局：中山台では中山台のまちづくり計画にも子どもの居場所づくりについて課題認識があり、準備会でも意見があったため記載した。長尾、宝塚は子ども、子育て層の意見を軽視しているわけではなく、同様に子ども、子育て層の意見を収集する。宝塚では第1回ワークショップでは、モルックという遊びを用いて子どもや親が参加しやすくすることを考えている。

（発言の補足）中山台では、中山中央公園以外の対象公園は、ワークショップ等を行わず、市と自治会が中心となり、計画を取りまとめる見通しであるため、子ども、子育て層の意見の収集、反映について留意する必要があるため、そのことについて記載した。

委員：子ども、子育て層の利用しやすい公園となることが望ましいため、中山台以外の地区でも子ども、子育て層の意見を収集して進めてもらいたい。

会長：ワークショップではその場に参加された方の意見を把握できるが、アンケートではワークショップに参加されない方の意見の把握も期待できる。そのうえで、今後は、ワークショップにもアンケートにも参加されない方の意見の把握が課題になる。

また、今後の子育て層の流入に向けて、子どもや子育てに優しいまちにしていくという考え方を市から提示してもいいのではないか。ただし、細かく提示すると、市からの押し付けになってしまう。

アンケートの内容に関して、件数を単純集計する設問ではなく、具体的な意見を把握できる自由記述が重要と考える。

委員：こうしたアンケートでは、公園に求める役割、ニーズを把握するということが目的になりがちであるが、公園をどう使うかというより、地域の人々が将来その地域でどのような暮らしをしたいのか、将来のまちの姿に公園がどう貢献できるのか、そうした観点でアンケートを行うことが望ましいのではないか。

会長：合意形成を行う際は、まず、アンケート等で関係ないと思われる意見もすべて発散させて、共有する。次にワークショップ等で意見の発散、共有を繰り返すことが必要である。そうすることで、他人の意見から違う意見が出てくることもある。一定、意見交換したのち、地区の大きな方向性をまとめるというプロセスになると思われる。大きなテーマも臆さず意見を聞いて欲しい。

委員：公園区計画は、地域のまちづくり協議会が計画作成の主体となるため、協議会が「どのような地域にしたいか」という考えをしっかりと持っていることが重要である。市はそうした姿勢を支えることが重要である。今の子ども、子育て層はゆとりがなく、地域の活動への参加が少なく、子ども、子育て層の参加をいかに促すかが重要になる。

会長：宝塚市にはまちづくり協議会が作成されている「まちづくり計画」がある。公園区計画の作成に際し、まちづくり計画を参照するような仕掛けも重要になる。

委員：いま議論されていることは「手法」であるが、重要なのは「中身」である。公園区計画の中身を高めていくには、パークマネジメント計画の考え方を地域の方々と共有することが重要である。

会長：パークマネジメント計画については説明しているのか。

事務局：まちづくり協議会への説明では、パークマネジメント計画の策定状況、概要については説明している。準備会でも、各地域のまちづくり計画実現に、公園が貢献していくことをめざすといった説明を行っている。

会長：アンケートの際も、パークマネジメント計画の趣旨をお伝えすることが望ましい。

事務局：長尾での準備会でも、参加者から同様なご意見をいただいた。アンケートの際に、パークマネジメント計画等の趣旨を説明したいと思う。

委員：アンケートの対象は子どもだけで大人は対象外なのか。

事務局：子どもも大人も対象にすることを想定している。

委員：スマートフォンを持っている方が対象になるのか。

事務局：広報方法も定まってきていて、市報や公共施設での資料配架のほか、中山台、長尾とも自治会の協力を受け配布を検討している。また、各小中学校でもタブレットを介して実施することを検討している。

会長：アンケート、ワークショップの実施主体はどこになるのか。

事務局：開催に向けた段取りは地域と一緒に言うが、準備は市が主導する。基本的に市と地域で協力して行う。

【議題 3. 主な審議事項について】

②街路樹管理計画の案及び修正内容等

会長：スライド P18、19 は、グリーンインフラの説明であるが、市内すべての街路樹をグリーンインフラ対応するのは多額の費用が掛かり、先進的な自治体でも対応は一部にとどまっている。

委員：「グリーンインフラ」という言葉は大層なイメージがあり、「雨庭」という言葉の方が市民になじみやすいのではないか。

会長：「グリーンインフラ」は一般になじみの薄い言葉であり、なかなか理解されにくい。グリーンインフラの考えを取り入れた取り組み等の説明を行うことが望ましい。

事務局：赤澤会長のご説明のとおりであり、「グリーンインフラに配慮した」等の表現にしている。

委員：「グリーンインフラ」という言葉が広く一般の人にも浸透していればよいが、現状はそうではない。「グリーンインフラに配慮した」という表現をすることとしても、グリーンインフラについてわかりやすい説明が必要ではないか。

会長：用語集の作成もしくは、注釈を記載する等の対応も考えられる。

委員：丁寧で平易な言葉で説明があったほうが良い。

事務局：今一度、計画内容を確認し、適宜、補足説明を行うなど、わかりやすいものをめざしていく。

委員：「クビアカツヤカミキリ」の被害が問題視されていると聞いているが、宝塚市の街路樹においても問題になっているのか。

事務局：市内ではサクラの被害が 1 件確認されている。

委員：クビアカツヤカミキリの被害が確認されているものの多くは街路樹で、宝塚市周辺の自治体でも街路樹被害が確認されている。一方で、山林となると、被害が発生していても確認しにくいという事情もある。街路樹被害の確認には、子ども達の目が有効で、まちなかでクビアカツヤカミキリを発見してくれる。

委員：クビアカツヤカミキリの対策について、計画で言及する必要はないか。

事務局：これまでのところ、言及することまでは考えていない。

会長：クビアカツヤカミキリは侵略的外来種であり、日常的に発見した都度対応することが重要である。街路樹や生垣は、まとまって存在するため、被害が拡大しやすい。本文中で外来種の調査に関する記載はあったか。

事務局：調査には相応な費用がかかるため、これまでのところ調査を実施するとまでは記載していない。

会長：近年、街路樹の倒木事故等に伴う裁判例が増えていて、行政の管理責任が厳しく問われることがある。基本的な危険木対策等については、実施の方向で記載しておいたほうが良いのではないか。記載するとすれば、50 ページなどであるがいかでであろうか。

事務局：将来的な点検体制について、業務委託の可能性も含め検討したい。

委員：危険木対策については、日常的な点検で実施されているのではないか。

事務局：どこまでが点検、調査であるか不確かな面もあるが、日常的な確認は行っている。

委員：街路樹は行政の財産であり、しっかり管理するのは行政の責務である。予算不足を理由に記載しないのはよろしくないのではないか。

会長：計画は予算に応じ定めるものではなく、計画に定めることで予算獲得につながりやすくなる。近日予定する街路樹の研究会でも、国から自治体がきちんと危険木対策を行うべきといった趣旨の講習会が行われる。今後、自治体による街路樹の安全管理への重要性がより一層高まることが見込まれる。

現状、剪定を発注する際の仕様では、目視で点検して、危険なものがあれば報告してもらおうが、腐朽診断等詳細な調査までは含まれていないことが多い。剪定作業自体も3年に1回となっていたりするため、その程度の頻度でしか目視調査がされていないところも少なくない。

そうした状況を変えるため、神戸市では3年間同じ業者に発注することで、剪定だけでなく、全体を点検して、育成してもらおう形にしている。また、データベース化して予算獲得に向けて頑張っている事例が出てきている。

費用はかかるが、かなり良くなる方法が出てきている。一文でも危険木対策について記載したほうがいい。

委員：危険木対策について記載することは、予算が確保できないなど業務遂行上のリスクもあるが、市民に対しオープンな姿勢を示せる。

会長：新たにページを増やすことはできないが、P50の中で言及することを検討いただきたい。

事務局：記載内容については検討する。

会長：次の審議会では審議せず、1月にパブリックコメントとなるため、修正内容については私の方で確認させてもらう。

【議題 4. 関連事項について】

③都市計画公園見直しガイドライン（案）の修正について

全委員：（異議なし）

④開発協力金制度の検討状況

会長：開発協力金は公園区の公園整備に用いるという認識でよろしいか。

事務局：その通りである。

会長：宝塚市では公園区計画もあり、公園区のために使われるという点で整合性がある仕組みになっている。

⑤シビックゾーン魅力向上に向けたサウンディング実施

会長：NTN の工場跡地の活用では、防災庁舎と広場、武庫川河川敷を一体的に活用するという事業者提案があったが、市の方針はどのようなになっているのか。

事務局：現状、武庫川河川公園の左岸も含めた広いエリアをシビックゾーンと位置付けている。右岸側は NTN の工場跡地の基本構想はあるが、左岸側も含めたエリアに関する方針はまだ出せていない。右岸側の公園、広場、河川敷等のオープンスペースの一体的な利活用に関する提案はあったが、左岸側まで含めた提案はほとんどなかった。

会長：今後どのようなまちにしたいのか、しっかり方向性を共有してサウンディングを実施しないと行政の意向と民間事業者の提案がずれてしまうことになる。

【その他】

事務局：次回の審議会は 12 月 18 日 15：00 から開催する。

（以上）